

皆さん、おはようございます。

私は韓国からきた留学生イフィドンと申します。よろしくお願いいたします。

今から「私を変えたマチガイ」というタイトルで発表をさせて頂きたいと思います。

私は日本に来てしばらくの間は、日本語の使い方を間違えて大変でした。私が渋谷駅に行ったときです。駅員さんに出口を位置を聞いたとき、読み方がデグチではなくシュッコウだと思い、そう言いましたが、ぜんぜん分かってくれなかったです。日本語は韓国語と似ているから普通に生活するだけですぐ慣れるだろうと思っていましたが、その経験で勉強の必要性を実感しました。

次は、約束場面における間違いなのですが、自分がホームステイのため、ホストファミリーの家にいったときの話しです。約束時間が午後1時でしたが、私は、「早く行くのは、招待した人が準備する時間を奪うのだから良くないだろう」と思って15分ほど遅れて行きましたが、ホストファミリーから「日本では約束時間は、その時間から約束の目的に沿って何かをはじめの時間だよ」と言われて、日本という国はやはり韓国と似ているが、似ていないということが分かりました。韓国での習慣を、そのまま日本での生活にするのはダメであることを経験しました。

最終に、大学生活での話しです。その前に、私は日韓生という奨学プログラムで日本にきていますが、留学までの流れを簡単に説明すると、韓国で筆記試験と面接から100人の学生が選抜されます。100人の学生には高校卒業後6ヶ月間は韓国で、その後の6ヶ月間は日本で日本語コースを履修する必要があります。

私が韓国で日本語の勉強をしていたときには、授業が終わったら、何人が集まって、大学周辺でビリヤードをしたり、カラオケに行ったりするのが普通でした。その後、横浜国立大学に来たわけなんですけど、初日から衝撃を受けました。キャンパスの周辺には一般家庭ばかりで、友達と遊べる場所なんかはありませんでした。

学部生として入学して、ある友達から日本の大学生の生活を聞いて、またショックを受けました。その友達は、「ほとんどの日本の大学生は高校を卒業したら、実家から自立し、自分の力で生活するためにバイトをするのが普通だよ」と言いました。それを聞いて自分が今からどうするべきなのかについて真剣に考えるようになりました。

私が想像していた大学生活は間違いでした。日本で自分の力で頑張って大学生活を支えている友達をみて、自分がどれほど恵まれた環境で勉強しているのかが分かりました。日韓の政府は私が遊べるためではなく、私の今からの可能性をみて、学費や生活費などを払ってくれるわけです。その両国の期待に沿って、将来貢献できる人になるためにできるだけ多くのことを体験しようとしています。皆様も自分が日本で留学している目的をはっきりと把握してほしいです。

以上で発表を終わります。ご清聴ありがとうございました。